

新年明けまして おめでとうございます



11月3日に開催されたトライアスロン（記事は4面）

新 年明けましておめでとう
ございます。

私 が高松に赴任して、ちょ
うど半年が過ぎたところ
です。昨年の夏が酷く暑かつ
たのはラニーニャ現象が原因
と言われているそうですが、
その理屈だとこの冬の寒さは
非常に厳しいものになること
が予想されます。…とは言っ
ても、私が以前勤務していた
東北の某事務所の頃に比べれ
ば、道が圧雪路になるという
ことも、地吹雪で前が見えな
くなるということも無さそう
なので、少し安心しておりま
す。

さ て今年、高松港朝日地
区国際物流ターミナル整
備事業において、岸壁供用に
向けた整備が始まります。満
潮時には水面下に隠れていた
本体工のケーソンですが、そ
の上に上部工が施工され、背
後の埋立も本格化します。港
湾管理者である香川県はマイ
ナス一二メートル岸壁につい



新年を迎えて



平成二三年度中の供用開始
を目標としており、我々もそ
れに合わせて鋭意整備を進め
ていく所存です。

た だ、これら整備に伴う平
成二三年度予算は、これ
から国会審議にかけられるこ
ととなります。公共事業の予
算については依然として厳し
い状況ではありますが、地域
経済の活性化のためにも、予
算がつくよう切に願っております。

新 たな年を迎え、職員一同、
今まで以上に地域の発展
に尽力する所存ですので、皆
様方におかれましては、ご支
援・ご協力のほどよろしくお
願い申し上げます。

高松港湾・空港整備事務所長
瀬賀 康浩





吊り上げ荷重100トン以上の超大型車

当社は一九五五年日本初の油圧式トラッククレーンを開発して以来、高松から全国へ、そして世界各国へクレーンを輸出してまいりました。今で

求められる大型クレーン

~シリーズ~ この人に聞く



株式会社タダノ
生産企画部長

たかぎ ひろゆき
高木 啓行 氏

- 昭和57年4月 株式会社多田野鉄工所 (現 株式会社タダノ) 入社
- 平成19年4月 企画管理部長
- 平成22年4月 現職

「道路法」と「車両制限令」による車両への制限について

道路の保全等を目的に「定められた幅・高さ・長さ、重量及び最小回転半径の最高限度(一般的制限値)を超える場合は、道路を通行させてはならない」と制限が設けられています。

は世界一二〇ヶ国以上に輸出しております。クレーンは公道を走行しますので国内の法律を遵守した上で走行することとなります。特に「道路法」と「車両制限令」によりクレーン等の大型車両は走行の制限が設けられています。特に近年、工事の大型化、工期の短縮によりク

工場は県内にありますので、どうしても高松港を使用する頻度が高くなります。輸出は当然の事ながら、国内各地への輸送に關しても高松港・徳島港・松山港・八幡浜港を利用して全国各地のお客様に届けております。

レーンも大型化が望まれており、今では国内最大のクレーンは吊り上げ能力五五〇トンで、このタイプですと上下分割した上で更に三〇台ものトレッラーが必要となります。こうした大型クレーンが道路を通行する場合、「通行条件付」で認められるケースがほとんどです。これは、走行は夜間に限定する・誘導車をつける・徐行する等の条件付で走行を認める、といったものです。



よく目にする「制限」

海外へ届けるには

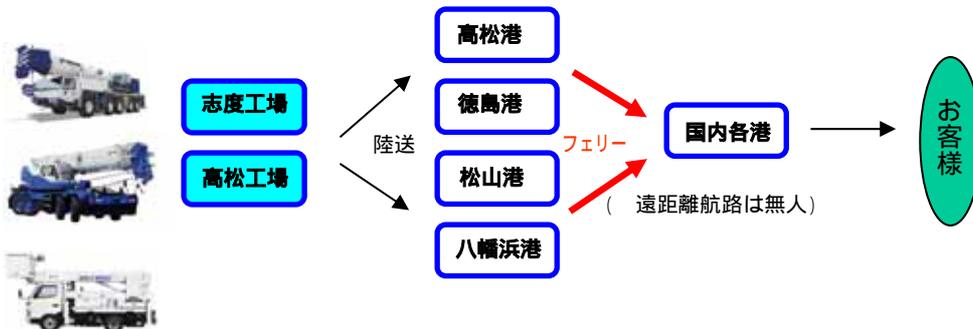
輸出に關しては、高松港から神戸港までフェリーに乗せ、神戸港・大阪港で船積みしております。輸出の場合RORO船と呼ばれる自走可能な大

基本的な製品物流ルート

< 輸出 >



< 国内販売 >



型船に船積みする事が大半です。大型商談の場合、一回での船積みが数十台に上るため、高松港で船積みをするケースもあります。最近では一〇年一月にカナダ向け二〇台を高松港で船積みしております。

港が出来る

○七年志度工場に隣接する港に港湾設備を整備し、○八年四月に供用を開始しました。それまで「分解搬送」していた作業がなくなり、品質面の向上、物流コストの削減、CO2排出削減等の効果が出ております。現在では志度工場から高松港・三本松港間の製品輸送に利用されています。

(港湾設備は同年さぬき市に寄贈しました)

欠かせない「海上輸送」

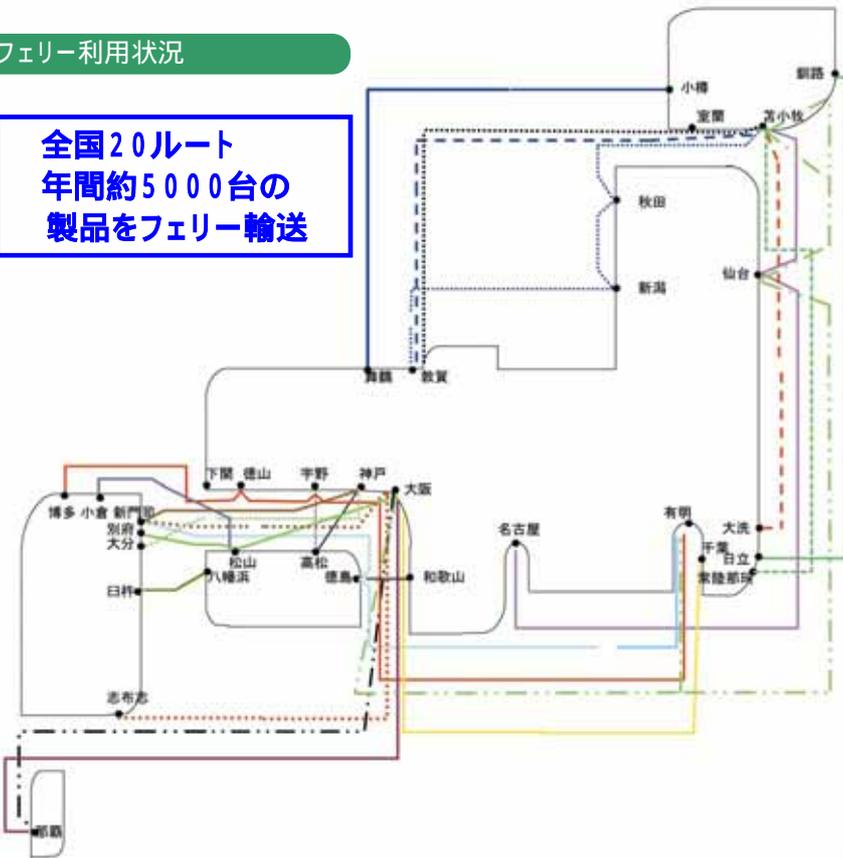
当社は香川県内に工場が立地している関係上、どうしても港を利用した輸送をせざるを得ません。フェリー利用のメリットは輸送時の交通事故リスクの防止、輸送コストの低減、通行許可が不要といったメリットがあります。今後



07年に整備された志度港

フェリー利用状況

全国20ルート
年間約5000台の
製品をフェリー輸送



は志度工場に隣接するバージ船とフェリー輸送を組合わせることによって、公道走行できない海外向け製品の輸送が容易になる、分解・搬送する必要がないので再組立による品質低下の懸念がなくなる、CO2の排出削減で環境にやさしい、という利点を活かしたいと考えております。当社にとって、港湾活用による製品輸送は事業の生命線とも呼べるものです。高松港を中心としたインフラの整備により利便性が高まると期待しております。

観光資源を活かしたまちづくりを目指して

「みなとまちづくり研究会」/八幡浜

国土交通大臣の諮問機関である交通政策審議会は、「みなと」の資産を住民・市民の視点から再評価するとともに、地域産業、海に開かれた特性など「みなと」の資産を最大限活用して、市民合意の下で美しく活力ある「みなと」空間を形成し、「みなとまちづくり」を推進する事を提案しています。

こうした中、港を活かしたまちづくりを進めようと十一月一日、第六回目となる「みなとまちづくり研究会」が愛媛県八幡浜市にて開催されました。当日は全国五三箇所からNPO法人・行政職員など一〇〇人を超える参加がありました。

研究会は二部構成で、まず第二回目となる「みなとオアシス全国協議会」総会を開催。みなとオアシスについて、メルマガの定期発行やホームページの充実で魅力を発信することや、会員間の情報交換により充実化を図る事が確認されました。また、次期総会は二〇二二年十一月十一日に神戸市にて開催する事が報告されました。

第二部では中国人ジャーナリストの莫邦富(モウバンフ)さんから「中国と日本は経済に置いて強く結ばれている。日本に対する貿易比重が右肩上がり、観光業は中国人の心を掴める。」と講演を頂き、座談会へ。「みなとまちづくりについて」をテーマに「スポット的なイベントでの集客はパワーがいるに

もかわらず、長続きしない。観光資源を活かして市民合意の下、長続きするみなとまちづくりが求められている。」と意見交換されました。



座談会に参加したまちづくりアクションプラン協議会萩原会長(みなとオアシスうたづウミホテル)

企画調整課 黒川

初のトライアスロン開催 サンポート高松港湾施設にて

全国の鉄人達二四四名がサンポート高松に集まり十一月三日、平成一三年五月一三日にサンポート高松がオープンして以来初めてとなるトライアスロン大会が開催されました。コースはスイム〇・七五キロ・バイク二〇キロ・ラン五キロで、選手達は秋晴れの中「せとシーパレット」からスイムをスタート。その後公道をバイクで疾走し、ランでは高松港玉藻防波堤灯台「せと」を折り返し地点に力走しました。

当所からも女性係長が参加。「完走出来て嬉しいし、何よりも市民に親しまれるみなと」を目標に整備してきたサンポートがこのような形で利用されて感無量。次回開催が楽しみ。」と振り返りました。



「せとシーパレット」からスイムに向かう選手たち



最終種目のラン。ゴールは目前！

二万トン級岸壁（サンポート高松）

* 入港予定 *

客船「ぼしふいっくびいなす」26,594トン
入港 1月8日（土） 7時00分
出港 1月8日（土） 20時00分

客船「にっぽん丸」21,903トン
入港 1月13日（木） 7時00分
出港 1月13日（木） 16時00分
入港 3月29日（火） 8時00分
出港 3月29日（火） 17時00分

練習船「弓削丸」240トン
入港 1月19日（水） 15時30分
出港 1月20日（木） 9時30分
入港 1月26日（水） 15時30分
出港 1月27日（木） 9時30分

実習船「湘南丸」646トン
入港 1月31日（月） 15時00分
出港 2月 4日（金） 13時00分

練習船「大成丸」5,886トン
入港 2月12日（土） 14時00分
出港 2月16日（水） 14時00分

【※ご注意下さい】

船の入出港時には、網取用の銃（もやい銃）が放たれる等、大変危険且つ作業の支障となりますので、岸壁付近には近づかないようお願い致します。また、入出港日、時刻はあくまで予定で、前後又は変更する場合があります。

港の防災と危機管理を考えよう

参加
無料

平成16年の台風16号による高潮では香川県沿岸域で甚大な被害が発生しました。また、今後30年以内に約60～70%の高い確率で発生すると言われていた南海・南海地震では、甚大な被害が四国地域全体に及ぶと想定されています。

そこで、過去の大災害を経験された方々の講演を通して、港湾における防災と危機管理のあり方やその役割について考えるセミナーを次のとおり開催します。

日時：平成23年2月12日（土）
時間：14:00～16:00（受付は13:30～）
会場：高松サンポート合同庁舎
アイホール（低層棟2階）
定員：150名（どなたでもご参加頂けます。）

お申し込み方法(FAX、ハガキ、E-mail)

FAX：087-826-1210
ハガキ：〒760-0011
香川県高松市浜ノ町72-9
高松港湾・空港整備事務所
企画調整課
E-mail：tkkc-i88s3@pa.skr.mlit.go.jp



台風による浸水被害（高松港）



阪神・淡路大震災（神戸港）

講演及び報告内容

講演

講師：独立行政法人港湾空港技術研究所 特別研究官 菅野 高弘 氏
「地震のメカニズムについて」（仮題）

講演

講師：ジャンボフェリー株式会社 会長 加藤 琢二 氏
「阪神・淡路大震災を経験して（フェリーの活用等）」（仮題）

報告

香川県 土木部 港湾課 課長補佐 森川 照久 氏
「平成16年台風16号の高潮被害を踏まえて」（仮題）



国土交通省・四国地方整備局
高松港湾・空港整備事務所

●高松港湾・空港整備事務所
〒760-0011
高松市浜ノ町72番9号
TEL087-851-5522
FAX087-826-1210

●坂出港分室
〒762-0002
坂出市入船町1-5-26
TEL0877-46-0311
FAX0877-45-4689

【ホームページアドレス】

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/takamatsu/>

お気軽にアクセスしてください。
皆さんからのお便りもお待ちしています。

『海とみなとの相談窓口』全国共通フリーダイヤル

おーいによくなれみなと
0120-497-370

受付時間*：9:30～12:00と13:00～17:00
(土・日・祝祭日・年末年始を除く)

*一部の地域を除きます。